

室岡家住宅

ここは 1935 年に建てられた 2 階建ての農家である。現在は「まつだい郷土資料館」となっており、松代の歴史や 1900 年代前半の農家の日常生活を展示するユニークな施設となっている。

この家は、地元の有力者であった室岡家が所有していた。元の建物は、十日町でよく見られる木羽葺きの木組みの農家で、大きなケヤキの梁を釘を使わずにしっかりと接合して建てられている。小舞に土を塗った土壁は天然の断熱材であり、厚く急勾配の茅葺き屋根は雪どけにも役立つ。2009 年、邸宅は移築され、金属板屋根や電気配線といった近代的な設備を追加した。

内部は、暖房と調理に使われる囲炉裏を中心とした、雪国の農家の典型的な間取りを残している。室内には、地元住民から寄贈された伝統的な道具、家具、家庭用品、美術品などが展示され、雪深い十日町の長い冬の間、地域住民たちがどのように生き抜き、繁栄してきたかがうかがえる。

2 階には、重要文化財である松茸神社の歴史や重要性についての展示や、7 歳の少年たちが松茸神社に参詣する「セツ詣り」の記録映像もある。